

麻痺性貝毒原因プランクトンの 発生予知に関する研究

(アサリ生産安定化総合研究)

(予算区分：県単独 研究期間 平成14～17年度)

担当：水産試験場浜名湖分場

【研究の背景とねらい】

麻痺性貝毒による人的被害及び漁業被害防止のため、麻痺性貝毒原因プランクトン (*Alexandrium catenella*) の増殖特性把握、浜名湖での発生状況及び環境要因の調査を行い、貝毒の発生予知法を検討します。



A. catenella

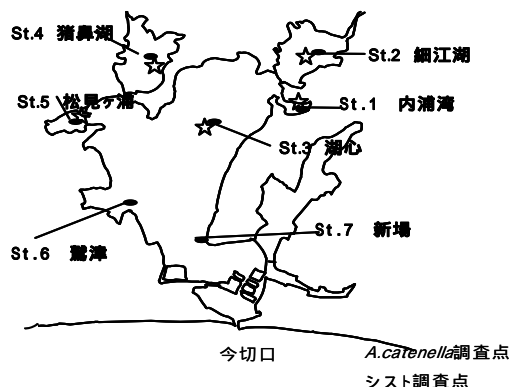
【研究成果】

麻痺性貝毒原因プランクトンの消長

7日～1ヶ月間隔で原因プランクトンの出現調査を実施しましたが、4年間で *A. catenella* 確認時の最高密度は5.0細胞/mLと低く、貝毒は発生しませんでした。

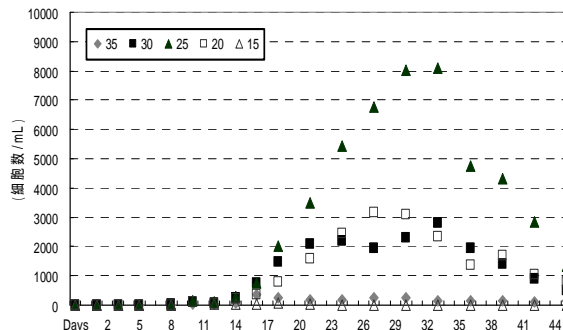
Alexandrium 属シストの現存量

浜名湖北部5測点の *Alexandrium* 属シスト現存量は、前回貝毒が発生した平成11年度の調査結果と比べ年々減少していることが分かりました。



第1図 調査点

調査地点	シスト堆積量 (シスト / g (湿泥))		
	H12年2月	H14年12月	H15年8月
内浦湾	375	39	12
細江湖	134	68	36.6
湖心	206	21	21
猪の鼻湖	33	29	29
松見ヶ浦	76	欠測	30



第2図 塩分別培養試験における *A. catenella* 増殖グラフ

気象と貝毒の発生

過去の貝毒発生の直前には、30mm/day程度の降雨があった後、日照量が8h/dayを超える日が続いていたことが明らかになり、*A. catenella* 増殖のきっかけと思われる気象要因が分かりました。

浜名湖産 *A. catenella* の増殖特性

照度及び塩分濃度に関する培養実験結果から、浜名湖産 *A. catenella* の増殖には塩分20～30の条件が適していることが分かりました。

【研究成果の普及方法】

本研究の成果を活かし、*A. catenella* の増殖に適した水温、塩分及び気象条件を絞り込んで、的確かつ効率的なモニタリング調査を実施します。また、本事業の成果やモニタリング調査結果を県民や漁業者に対して提供し、周知に努めていきます。

(作成 平成18年4月)